

## 科学者委員会男女共同参画分科会

### Gender Summit 10 フォローアップ小分科会（第 24 期・第 7 回） 議事要旨

日時： 2019 年 9 月 4 日（水） 15:00～17:00

場所： 日本学術会議 5 階 5 - B 会議室

出席者（五十音順）： 伊東昌子、行木陽子、藤井良一、渡辺美代子

TV 会議参加 高橋裕子、松尾由賀利、三成美保

話題提供（参考人）： 新井ひろみ（理化学研究所）

#### 配布資料：

資料 1 - 1 7/4 シンポジウムプログラム

資料 1 - 2 7/4 シンポジウム報告 1

資料 1 - 3 7/4 シンポジウム報告 2

資料 2 - 1 GS16 プログラム

資料 2 - 2 GS 歴史

資料 3 - 1 荒井ひろみ先生発表資料

資料 3 - 2 行木委員話題提供資料

#### 参考

Gender Summit 10 フォローアップ小分科会 委員名簿

Gender Summit 10 フォローアップ小分科会（第 6 回）議事要旨

#### 議事

##### 1. 2019 年度 GS10 フォローアップシンポジウムの報告

渡辺委員長より、7 月 4 日 GS10 フォローアップシンポジウムの開催報告が行われた。ジェンダーの問題を LGBT など広範囲にとらえ議論できよかった。男性の参加も多く(41%)アンケート結果(よかったとの評価 96%)も高かった。

##### 2. GS16 の報告

渡辺委員長より、GS 16 の報告が行われた。8/28-29 シンガポールで開催され、JST 濱口理事長が Keynote Speech に登壇し‘Science for sustainable society and well-being for all’について講演を行った。GS17 は 10 月アムステルダムで開催予定。GS の歴史と意義について説明。

##### 3. AI の公平性とジェンダーについて

AI の公平性とジェンダーについて、行木委員より話題提供、新井先生より発表が行われた。AI というブラックボックスの中から導きだされた結論から生まれる倫理的な課題や、その判断結果がもたらす社会的な影響が懸念について、委員間で活発な意見交換が行われのような意見がでた。

- この問題は AI を司る人の問題である
- この件についてはバイアスの問題が大きい、バイアスにはサンプリングの問題と学習の問題（少数サンプルの軽視）がある。
- GS 米国の試験：一般的な白人の生活をしていないと答えられない問題が出題されている
- このテーマ（バイアス関係）の発表に対して日本人の反応が欧米と比較して低い
  - ・ 文化の問題：日本人は受け入れる。欧米人は調整する。 が起因している可能性がある
- AI の公平性に関する事例：外国の例が多い。日本の具体的な事例はまだ公式には公開されていない。リクルート社が問題として挙げていた例は学歴フィルターは例に近い

- 間接差別に関する考え方。日本は間接差別を認めない傾向が強い。
- 倫理観の説得問題
- 意思決定の多様性
- ガイドラインが必要  
（参考）総務省：AI ネットワーク社会推進会議 報告書 2019 の公表  
[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01iicp01\\_02000081.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01iicp01_02000081.html)
- 学術会議から見たときにどうあるべきか

#### **4. 宿題**

今後この議論をG S 10 フォローアップ小分科会議でどう進めていくか、アイデア持ち寄る。  
9 月中に、案を渡辺委員長と行木委員までお送りいただく。